


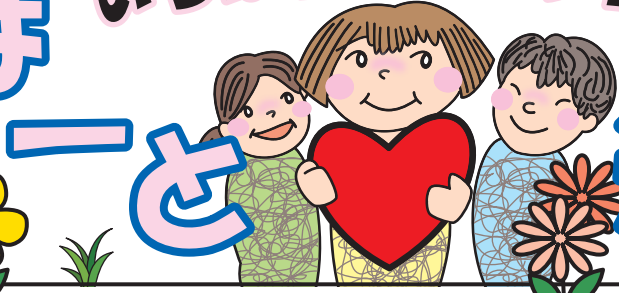
は いちはら福祉ネットの 通信

発行者／中核地域生活支援センター
いちはら福祉ネット
(千葉県委託事業)

☎ 0436-23-5300
FAX 0436-23-5225
Mail ichihara_f.net@bh.wakwak.com

HPはこちら→ 

VOL. 64
2022.11.1発行



市原市の外国人支援の今

～みんなでたすけあい、共に生きようこのまちで～



わたしたちの住む市原市には多くの外国人市民(以下：外国人)が住んでいます。

しかし、外国人のなかには日本語が上手に話せず言いたいことをうまく伝えられないなど、言葉の壁があるために生活するのに必要な情報を手に入れることが難しく、生活全般において問題を抱えて困っている人も多いです。

そこで今回の一と通信では、外国人相談を担当している市原市役所の「観光・国際交流課」の方にお話を聞きました。また、後半はいちはら福祉ネットで受けた外国人相談を取り上げ、これからの外国人支援について考えていきたいと思います。

市原市役所 観光・国際交流課にインタビュー

○市原市内の外国人人口について教えてください。

市原市内には63か国、6,072人の外国人が住んでいます(R4.3現在)。外国人人口の割合は、多い順にフィリピン、中国、韓国、ベトナム、ブラジル、タイの国籍で、外国人人口の約8割を占めています。

○観光・国際交流課の仕事内容を教えてください。

外国人支援に関することでは、観光・国際交流課内の外国人相談窓口(毎週火・金曜)で行政情報の提供や相談対応を行う他、多文化理解の啓発や多文化共生に関する業務を行っています。また、市原市国際交流協会と共催で、日本語教室を市内9カ所で開催しています。

その他、過去には日本語学習支援ボランティア養成講座や、2020年の東京オリンピック・パラ

リンピックのための通訳ボランティア養成講座を開いていたこともあります。

○外国人相談では、どのような内容の相談が多いのですか？

生活に関する困りごとや、子どもの教育に関すること、在留資格に関することについて相談を受けることが多いです。ここ数年はコロナ禍の影響で仕事がなくなり相談に来る外国人もいました。相談内容に応じて市役所内の窓口につなげる等の対応をとっています。

○外国人対応で他に連携している機関について教えてください。

相談内容によって、市役所内の福祉総合相談センターをはじめ、福祉サービス・教育・子どもに関する部署に連絡して、必要な支援につなげられるようにしています。

在留資格に関することについては、出入国在留管理庁に問合せをしています。

○市役所窓口で言葉がわからない人の対応についてどのようにしていますか？

「多言語電話通訳サービス(18か国言語対応)」を活用し、窓口で複数言語に対応した行政サービスを提供しています。電話での問い合わせであっても、外国人、市役所窓口、コールセンターの3地点3者間通話で通訳が可能です。

○外国人に生活に関する情報を届けるために工夫していることはありますか？

情報を迅速に届けられるように、英語・中国

語・韓国語の翻訳機能がついた市ウェブサイトを活用しています。また、日本での生活に関する多言語情報を紹介する外部サイトにリンクさせるなど、より多くの情報が提供できるようにしています。

○外国人対応における今後の課題について

外国人が求めている情報を届けられているか、サービスが充足しているかどうか、市内外国人の生活状況や実態を確実に把握する必要があると感じています。今年からフィリピン、タイ、ブラジル等のネットワークを持っている人にご協力いただき、直接お話を伺う場をつくり外国人の実態把握に向けて動いています。

多文化理解の啓発については、居場所づくり、多文化理解に関するイベント、市民の人が交流できる機会を設けていきたいです。

お忙しいところ、貴重なお話ありがとうございました。

いちほら福祉ネットで受けた外国人相談

いちほら福祉ネットには、外国人本人や知人、関係者の方から外国人に関わるさまざまな相談が寄せられます。

主な相談

- ・日本語の会話はなんとかできるが、市役所などから届く手紙が難しくてわからない。何を書いてあるか教えてほしい。
- ・コロナで仕事がなくなり生活に困窮している。しかし、仕事がなくなったことで在留資格が変更されてしまい、公的な制度が受けられず困っている。
- ・パートナーからDV被害を受けている外国人。別離を希望しているが、どのような手続きから始めればいいのかかわからない。身の安全も図りたい。
- ・介護が必要となった方の家族が外国人で、制度の説明や手続きの理解が難しい様子。どのように手助けしたらよいか。

外国人相談の傾向として、在留資格や国籍に関する問題、DV被害や離婚に関する問題、子どもの教育問題、経済的問題、法律問題などが複数発生し、より生活が困難な状態となっている事例が多いです。

問題の背景には、言葉の壁、文化の違い、生活に関する正しい情報が少ない、または得にくいことがあり、そのため不利な状況に置かれやすいと考えられます。中には、困っていても自身の問題の違法性を恐れて相談自体を避けてしまう方もいるようです。

おわりに

困りごとは、早めに対処できるほうが解決の選択肢が増えます。もし、あなたの周りに困りごとを抱えている外国人がいたら、下記の相談窓口を紹介してあげてください。

もちろん、いちほら福祉ネットでもご相談をお待ちしています。



市原市の外国人相談窓口

- 観光・国際交流課（市原市役所第1庁舎3階）
英語対応…毎週火・金曜 9時30分～15時30分
TEL 0436-23-9866
- 五井支所（サンプラザ市原2階）
ポルトガル語対応…第1・3水曜 9時～12時
スペイン語対応……第1・3金曜 13時～16時
TEL 0436-24-3934

Ichiharashi no Gaikokujin soudan madoguchi

- Kankou kokusai kouryuka
(Ichihara shiyakusho 3F, Dai 1 chousha)
Eigo taiou…maishuu Kayoubi, Kinyoubi
9:30～15:30
TEL 0436-23-9866
- Goi shisho (2F, Sanpuraza Ichihara)
Porutogarugo taiou…Dai 1, 3 suiyoubi
9:00～12:00
Supeingo taiou…Dai 1, 3 kinyoubi
13:00～16:00
TEL 0436-24-3934

第15回市原市精神保健福祉フェスタ

～誰もが住みやすい街を目指して～

今回のテーマは『歩みよりから始まる地域のWa』。精神疾患は誰でも罹りうる病気です。疾患の理解を深め、地域で暮らしていくために何が必要なのか一緒に考えませんか？

【日時】 令和4年11月12日(土) 12:30～

【会場】 市原市市民会館大ホール

【内容】 ○講演

『人の暮らしに寄り添うメンタルヘルス支援とは』
伊藤順一郎氏（医療法人社団こころらら メンタルヘルス診療所 しっぽふぁーれ 院長）

○ステージ

大前光市氏によるダンスパフォーマンス

八幡中学校と八幡東中学校合同チームによる吹奏楽

【対象】 市民 【参加費】 無料

【問合せ先】 市原市役所障がい者支援課

☎0436-23-9815

市原市精神保健福祉フェスタ実行委員会事務局

☎0436-24-2925（はばたき）

※感染拡大により開催変更もあり得ます為、詳細に関してはお問い合わせください

いちほら認知症あんしんフェスタ

認知症の人もそうでない人も、関わりを持って地域で安心して暮らしていける地域づくりを目指し、「みんなで認知症の人を支えたい」「誰もが排除されない優しい地域を作りたい」という思いで集いを実行します。



【日時】 令和4年11月13日(日)

10:00～15:00

【会場】 ユニモちはら台

1階パークストリート「ユニモプラザ」

【内容】 相談ブース「認知症に関すること、歯科相談、薬と健康に関すること、福祉施設入所相談」など

各種展示、イベント、健康・運動機器展示、お薬分包体験など

【参加費】 無料 【申込】 不要

【問合せ先】 市原市認知症対策連絡協議会

事務局介護老人保健施設なんな苑

飯吉 ☎0436-50-3212

メール ichininkyoo@gmail.com



テーマ

「市原市にグループホームは足りている？」

～グループホームの設置状況～

市原市には、8月1日時点で24事業所80軒（定員448名）のグループホーム（以下「GH」）が設置されています。障害種別は別表の通りです。GHはここ数年急増しており、今年もすでに3軒が新規開設されました。また、下半期も開設予定との連絡がすでに数件、入っております。

数が増えている状況からみて、この地域のGHは足りているのかというと、必ずしもそうではありません。別表からもわかるように、知的、精神に比べて身体障害者のGHは圧倒的に数が少なく、中でも重度心身障害者が入れるホームは更に少ないです。医療的ケアが必要な方や聴覚障害、視覚障害の方等が利用できるGHは県内を探しても数軒しかありません。

GH利用希望者の中には、家庭内の問題から自宅を出なくては行けない方、20歳未満の若い方、触法の方等、様々な事情を抱えている方もおり、多様化してきています。

利用希望者にとって、GHに空室があることは住む場所を選べる利点があります。どんな障害でもどんな事情でも、入居するホームを自らが選んで決められるよう、各ホームの質の向上を目指し、今後も地域づくりに取り組んで参りたいと思います。

【別表】

障害種別	軒数
知的	26軒
精神	11軒
身体	3軒
知的・精神	31軒
知的・精神・身体	9軒



旬の食材を使ったヘルシーメニュー

根菜の栄養たっぷり

筑前煮

(1人分: 84Kcal)

材料(4人分)

鶏肉 100g、人参 60g、ごぼう 60g、れんこん 40g、椎茸 20g、
いんげん 20g、油 4g、だし汁 50cc、酒 4g、三温糖 10g、醤油 12g

作り方…① 鶏肉、椎茸、いんげんは食べやすい大きさに切り、人参、ごぼう、れんこんは小さめの乱切りにする。

② 鍋に油を熱し、鶏肉、ごぼう、人参、れんこんの順に炒める。

③ だし汁を加え、野菜が柔らかくなるまで煮る。途中でアクを取る。

④ 野菜が柔らかくなったら、酒、三温糖、醤油を加え、いんげんを加えて味が染みるまで煮る。

栄養士さんからのおすすめの一言・・・

「ごぼう、れんこんは食物繊維が豊富です。里芋、たけのこ、こんにゃくを入れるのもオススメです。」
今回のレシピは、社会福祉法人杏の会 桜保育園 栄養士の 菅野春菜様に提供していただきました。

いちほら福祉ネット活動報告(7月～9月)

〈会議〉

- ・市原市総合計画審議会 [7/6](#)
- ・市原市相談機関連絡会 [7/19, 8/16](#)
- ・市原市認知症対策連絡協議会 役員会 [8/26](#)
- ・市原市認知症対策連絡協議会 定例会 [7/28](#)
- ・市原市要保護児童対策地域協議会 代表者会議 [7/15](#)
- ・市原市要保護児童対策地域協議会 実務者会議 [7/26, 8/30, 9/27](#)
- ・市原市障がい者支援協議会 権利擁護部会 [8/3](#)
- ・市原市相談支援事業所連絡会「銀杏の杜」[8/26](#)
- ・市原市精神保健福祉フェスタ実行委員会 全体会 [8/15](#)
- ・千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業 市原圏域実務者会議 [7/4, 9/26](#)
- ・障害者就業・生活支援センター市原地区意見交換会 [9/29](#)
- ・2022年度地域生活定着支援事業関係機関会議 [9/12](#)
- ・市原地域リハビリテーション広域支援センターちーき会 [7/22, 8/19, 9/29](#)
- ・ちば南東部地域若者サポートステーション第1回ネットワーク会議 [7/26](#)
- ・加茂地区民生委員児童委員協議会定例会 [7/12](#)
- ・千葉県社会福祉協議会 政策調整委員会 [7/25](#)
- ・中核地域生活支援センター連絡協議会 定例会 [7/26, 8/23, 9/27](#)
- ・中核地域生活支援センター連絡協議会 制度政策委員会 [7/5, 7/21, 8/2, 8/22](#)

〈研修〉

- ・DV・児童虐待相談新任職員研修(V部) [7/4](#)
- ・令和4年度精神保健福祉研修(担当者研修) [8/26](#)
- ・司法と福祉千葉モデル勉強会 [7/27, 8/23, 9/27](#)

- ・よりそいホットライン報告会(難民問題) [7/23](#)
- ・外国人生活保護訴訟報告会 [7/26](#)
- ・重層支援研究会 [7/2, 8/27](#)
- ・がじゅまる研究会 [7/9, 9/10](#)
- ・千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 研修会 [9/13](#)
- 〈その他〉
- ・市原市地区民生委員児童委員協議会 9月度定例会 テーマ学習(講師派遣) [9/1, 9/5, 9/6, 9/7, 9/8, 9/13, 9/14](#)
- ・市原市相談支援事業所連絡会「銀杏の杜」(講師派遣) [8/26](#)
- ・令和4年度第2回京都府生活困窮者自立相談支援機関従事者研修(講師派遣) [9/2](#)
- ・北海道栗山町(視察受入) [7/5](#)
- ・ちはら台地区福祉総合相談(出張相談) [7/16, 8/27, 9/17](#)
- ・青葉台地区福祉介護相談(出張相談) [7/19](#)
- ・市原市参加支援の場づくり事業(運営) [7/29, 8/3, 8/31, 9/16](#)
- ・校内居場所カフェ事業(運営) [7/20, 9/21](#)
- ・千葉県中核地域生活支援センター大会in2022(運営) [8/30](#)

いちほら福祉ネットへの相談件数(速報値)

令和4年7月～令和4年9月

延相談件数 1,011件(新規54件)

相談方法	電話	793件	対象者	高齢者	47人
	訪問	152件		障害者	455人
	来所	61件		児童	57人
	関係者会議	5件		その他	452人

令和4年度(4月～9月)

延相談件数 2,029件

編集後記

だんだんと秋が深まるにつれて、日が沈むのも早くなってきました。秋の風物詩といえば紅葉狩り。各地で紅葉が見ごろを迎え、赤や黄色に色づき美しいグラデーションがみられます。養老深谷もそろそろ色づく頃なので、お休みの日に足を運んでみてはいかがでしょうか。(スタッフ一同)

